淡々としたものだったという。ファインダーからのぞき、作品となった写真は、子どもたちの手に渡り、それぞれの家庭に持ち込まれた。

「反抗期で言葉づかいも悪く悩んでいたが、娘の無邪気な表情にホッとした」「何年かたってアルバムを開いた時、貴重な少女時代の1ページ。大切にします」

全員の親から寄せられた感想文が、近藤さんの貴重な宝物になっている。現在25歳か26歳になっている教え子たちの遠い思い出。

◆こんどう・さとし　1933年横浜市生まれ。東京学芸大学卒。元小学校教員。30年間、学校の子どもたちをモノクロで撮り続ける。

久保田亜矢

エゾリス―北の森から―

1996年に名古屋から小樽市へ移り住んだ。そこで出合ったエゾリスに運命を感じ、本格的に動物写真に取り組む。現在はエゾリスを中心とした小動物に、森の景観も含めた北海道の自然を撮影し、雑誌等で作品を発表している。生命の連なりの中で懸命に生かされ生きている生命の輝き、煌めき、息遣い、気配を表現すべく奮闘中。

◆くぼた・あや　静岡市生まれ。自然写真家・岡本洋典氏のアシスタントを務める。個展に「エゾリス～北の森に生きる～」（2002年）。日本写真家協会会員。

奥山淳志

Country Songs ここで生きている

奥山さんがまとめたのは、東京から岩手県雫石町に移住して初めて見えた世界。「日本の大多数を占める地方には、楽園的でゆるぎないものがある」というのは都市が生み出した幻想で、実際はさまざまなものを捨て去りながら、土地もそこに暮らす生命も変わり続けていた。

人は変わらないことを切に願いながら、何を得ようとしているのか？　そこに暮らすものの視点で記録してきた。

◆おくやま・あつし　1972年大阪府生まれ。写真家。東京の出版社を経て独立。98年、岩手に移住し、現在に至る。著書に『手のひらの仕事』『いわて旅街道』（ともに岩手日報社）などがある。2006年、「Country Songs　ここで生きている」がフォト・ドキュメンタリー「NIPPON」2006（ガーディアン・ガーデン主催）に選出される。

早田清美

棚田の初夏　愛媛県西条市千町

松山市在住の早田さんは、地元西条市千町（せんじょう）の棚田を50年撮り続けている。中心街から離れ、川沿いの山間部に広がる千町地区。標高150～500メートルの山の急斜面に、400年前から棚田がつくられ続けてきた。

棚田には、農家の人々の米作りに対する執念を感じると早田さんは言う。子供が生まれるたびに狭い土地に石を積み上げ、上へ上へと一枚ずつ耕作地を広げてきたのだ。それが今は美しい景観として保たれ、訪れるものを魅了している。だが一方で、過疎と高齢化が進んだ現状では耕作放棄が続き、棚田は3分の1に減少した。存亡が危ぶまれている。

環境を守るうえでも重要な役割を果たす棚田を撮り続けることで、自然保護に役立ちたいと早田さんは願っている。

◆はやた・きよみ　1932年愛媛県生まれ。元ニュースカメラマン。

Comment

ASAHI ORIGINAL　アサヒカメラ編
アサヒカメラDIGITAL Vol.12

もう迷わない
レタッチ
自由自在

好評発売中！

写真はもっとおもしろくなる！

価格1,890円（税込）
●A4判変型・116頁＋DVD1枚

［ビデオ取材＋巻頭ギャラリー］ 平間 至

［Opening Message］
森山大道／ピクトリコ

・時代と色　飯沢耕太郎
・記憶の風景［風景写真補正］
・つぶす絵、飛ばす絵［ヒストグラム考察］
・レタッチ☆プチ整形［人物写真補正］
・美しい条件とは？［資生堂インタビュー］
・ポジスキャン自由自在［銀塩のデジタル化］
・わき立つ料理［料理写真補正］
・撮影は解き放たれる［SILKYPIXインタビュー］
・暗室の技をデジタルで［Photoshop活用］
ほか

［新製品紹介］
キヤノン EOS 30D 登場！

※内容等は編集の都合上変更になる場合があります

永久保存版付録 アサヒDVD
●「そのぬくもりに用がある」平間 至
●ポートレート写真の撮影からレタッチまで
●ビデオインプレッション キヤノンEOS 5D vs ニコンD200

発行所：朝日新聞社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL.03-3545-0131（大代表）

●お求めは、全国の書店または asahi.com「OPENDOORS」でどうぞ。
http://opendoors.asahi.com/